

## ミサを生きる (7)

（「ミサの鑑賞—感謝の祭儀をささげるために—」吉池好高 オリエンズ宗教研究所より）

### 【はじめのあいさつ】

■全員で十字架のしるしをしながら唱えます。

ミサの始めに、ミサを司式する司祭と私たち一同は互いにあいさつを交わし合います。

「主イエス・キリストの恵み、神の愛、聖霊の交わりが皆さんとともに。」

あいさつにしては何と風変わりなあいさつのことでしょう。聖書に起源を持つこのあいさつのことばによって、私たちは互いにあいさつを交わし合っている、日常のあいさつによるお付き合いの世界から、神の恵みによってもたらされる、真の平和の世界へと招き入れられるのです。司祭のこのあいさつのことばは、イエス・キリストの招きによって私たちのうちに実現している事柄の宣言でもあり、私たちの集いがこのあいさつのことばにふさわしいものとなるようにとの願いをこめた招きでもあります。ミサの集いはこのようなあいさつによって始まる集いであることを心にとどめたいと思います。

### 【回心の祈り】

■司祭の呼びかけに答えて祈ります。

主によって招き入れられたこのような広がりの世界を実際に生きられていない私たちがいます。自分のことにしか、あるいはせいぜい自分にとって大切な者たちのことにしか、関心を向けることのできない私たちです。イエスに憧れつつも、自分の狭さにとらわれている、私たちの現実のありようを反省しつつ、イエスに、そしてともに招かれている兄弟たちにゆるしを乞うことなしに、このイエスによる招きに加わることはできません。私たちはそのようなゆるしを願って回心の祈りを唱えます。

ミサに集う私たちは、招いてくださったイエスの広く細やかな心に憧れつつも、自らの狭さと頑なさにとらわれた者たちです。そのような私たちをゆるし、受け入れ、新たな交わりの世界へと招いてくださるイエスのおかげで、私たちは自分たちのありようにもかかわらず、一つになって集う可能性を現実にも与えられているのです。

※（「はじめのあいさつ」の後）司祭は回心の祈りを勧める。これは短い沈黙のひとときの後、共同体全体が一般告白の形式をもって行い、司祭のゆるしのことばによって結ばれる。しかし、このことばは、ゆるしの秘跡の効果をもつものではない。

主日、とくに復活節の主日には、いつも行っている回心の祈りの代わりに、時には洗礼を思い起こすために水の祝福と濯水を行うことができる。（ローマ・ミサ典礼書の総則51）